

2015年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



## 教室だより 4月号

### ワクワクした気持ちで新たな一歩を

桜咲く、入学・進級の季節になりました。

入園式・入学式は、お子さまが新たな社会と出会う行事です。

保護者の皆さまにとっては、お子さまの成長を実感できる、期待と喜びが大きい行事ですが、お子さまにとっては、新しい環境に入ってゆくことは、未知の扉を開けるようなもの。期待や希望も大きいものの、不安や負担も大きい、非常にプレッシャーのかかる行事でもあります。

お子さまがワクワクした気持ちで新しい環境を楽しめるよう、学校生活の様子を笑顔で聞いてあげるなど、前向きな気持ちを引き出す声かけや環境づくりをしてあげたいですね。

私たちも、お子さまの「やってみよう」という気持ちを引き出し、何事に対しても積極的に取り組んでくれるよう、保護者の皆さまとともに、お子さまの良きサポーターでありたいと願っております。

些細な事でもけっこうですので、お気づきの点や気になっておられることがございましたら、ご遠慮なくお声かけください。よろしくお願いいたします。

### 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

#### “学校と同じようにはしないからこそ学習効果が高い”

公文式はあくまで家庭学習の立場にたつものです。

子どもは毎日学校でいろいろなことを習ってきます。家庭でも同じ方法で同じことばかり勉強させたら、子どもはウンザリしてしまうのではないのでしょうか。

学校の教科書に出てくるからといって、計算も図形も文章題もとすべてを同じようにおしついたら、子どもは勉強に興味をもてなくなるでしょう。算数が苦手な子どもなら、ますます算数ざらいにしかねません。

学校ではいろいろなことを教えてくれるのですから、家庭では的をしぼって、学校とは違った方法で長期的な見通しのもてる勉強をさせるべきなのです。計算だけで大丈夫なのかと、図形や文章題のことを心配されるお母さんが多いのですが、計算力が高まっていくうちに数学的感覚が身につき、学年相当の問題なら楽にできるようになります。

### 2015年 4月の学習日

| 日  | 月  | 火  | 水            | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|--------------|----|----|----|
|    |    |    | 1            | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8            | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15           | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22           | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29<br>4月7日の日 | 30 |    |    |

本市場教室日□

横割教室日△

KUMON

公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索



ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

#### 今月のことわざ

## 大胆不敵

勇気があつて、まったく相手をおそれないこと。

◆「大胆」は、度胸が大きいことを意味する。

「男の子三人にいじめられそうになったのに、一人で立ちむかうなんて、大胆不敵だ。」

「大胆不敵にも、昼間どうとつと、近所の家にどろぼうが入ったらしい。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

## ゆき子の一言コラム

### 【第2回】 子どもに疑問を持たせる

小学生に上がる前の小さい子どもは、何でも疑問に持ち尋ねます。

「ねえ、あれ、なあに？」

「〇〇ってなあに？」

「どうして〇〇は、□□なの？」

親も大人も初めは喜んで答えますが、これが、四六時中続くと、だんだん面倒になり、ついつい軽くあしらったり、適当な答えをして、その場を逃れてしまいがちです。

そうした子どもも、小学校に入ると、少し質問がレベルアップしてきますが、いつしか気づくと、だんだんと質問をしなくなってしまうものです。自分でも考えるようになる、調べられるようになる、という面がないわけではありませんが、多くは、かつて真面目に答えてもらえなかった“親（大人）へのあきらめ”です。その証拠に、小学低学年生は、学校の先生には何でも疑問をぶつけます。

家庭では、そんな時期こそ、積極的に子どもたちに語りかけましょう。本当は、いろいろなことを聞きたいのです。疑問が山ほどあるのです。親や大人でも答えられないような、難問もたくさん抱えているのです。

大人が知識をひけらかすのではありません。子どもに疑問を持たせるのです。当たり前と思わず、いろいろ分からないことがある、不思議なことがある、知らないことがある、ということを実感させるのです。

「すごいでしょ、これ…」

と少し大げさくらいに驚きを見せることでも、子どもの関心を引きます。

「こんな大きな木も、もとは小さな種だったんだよ…」

そう、語りかけることもできます。

子どもが話しに乗って来て、興味を持とうが持つまいが、親や大人は、子どもに刺激を与え続けることが大切です。どこかで子どもの興味にヒットし、それをふくらませるかも知れません。つまり、大人にとっても、当たり前のことを当たり前と思わない、物ごとを客観的に見る態度が必要なのです。

最近ではさまざまな便利なものがあります。パソコンや携帯電話も当たり前の世の中になりました。子どもにとっては、そうした文明の利器も疑問だらけのはずです。大人はそうした疑問すら思わない、当たり前に使っているものであっても、子どもにとっては新鮮で、不思議だらけなのです。もちろん自然や宇宙のことも分からないことだらけでしょう。そうした疑問をふくらませてあげてください。質問されて答えられなくなってもいいのです。子どもの疑問は、そうしたもののばかりかも知れません。知ったかぶりをしないで、一緒に調べよう…、という態度も必要です。

ちょっとした大人のひと言が、子どもに疑問を持たせ、いろいろなことに興味や関心を抱かせます。それが、『ものを考える』ことにつながっていくのです。

### 「勉強のコツ教えます」シリーズ NO.1 （数英国共通）

学習済み教材で「定義」「公式」を確認しよう！みなさんはたくさん練習すると「できる」力が育つと実感したことがあるでしょう。例題や導入問題を精読し、問題をたくさん解くことで、速く正確に代数計算ができるようになっていくなど。このみなさんの練習をさらに生かす方法があります。それは自分が学習した教材をふり返ることです。

#### ◆「いつふり返るか？」

1. 学習前に、前回学習して100点にした教材をまとめて2～3分くらいふり返る。
2. 学習後に、当日学習して100点にした教材をまとめて2～3分くらいふり返る。
3. 単元ごとの（30枚前後）まとまりで4～5分くらいふり返る。
4. 終了テスト前などに、1教材（200枚）をふり返る。

#### ◆「何をふり返るか？」

1. 教材の「定義」「公式」や注意点に蛍光ペンで線を引く。
2. 教材の「解法のポイント」、「着眼点」、「解法手順」を確認する。

大切だと思ったところに蛍光ペンで線を引く。

3. 模範解答（＝解法の手引、解答書）を見て、上手な解答例や演算指令の書き方を確認しながらふり返る。

自分が学習した教材をふり返ると、問題と解法手順の対応が鮮明によみがえってきます。これはみなさんがすぐに行える方法です。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。4月分の会費引き落としは3月30日（月）です。よろしくお願いいたします。（注）休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。最近教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないという苦情がありました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。